

【ものづくり 人づくり 地域づくり】



12/1 あいコープふくしま 復興まつりに参加

3.11 大震災を忘れない！ 原発事故を許さない！

生協の子どもたちが摘んでくれた 真綿のコットンボール
40kgを届けに



行ってまいりました。 あいコープ ふくしまへ！

○引き延ばし工作をする国・原電に対して審理開始を要求
ようやく1月17日(木) 14:00 ~ 16:00 水戸地方裁判所
東海第二原発運転差止訴訟 第1回口頭弁論
が開かれます。住民原告が意見陳述します！

【住民原告意見陳述】福島原発事故被害者:佐藤孝之さん(あいコープふくしま理事長)、東海村 JCO 臨界事故被ばく者:大泉恵子さん、原告代表:大石光伸(常総生協副理事長)

【弁護団弁論】日本の原発の現状と本件訴訟の意義(河合弁護士) 福島原発事故と放射能汚染・被ばくの被害(茨城弁護団) 科学者の反省と責任(内山弁護士) 原発訴訟の歴史的な総括と司法の責任(海渡弁護士)

※「被告」である国・日本原子力発電(株)は、5ヶ月経っても(7/30提訴)「答弁書」も提出せず、水戸地方裁判所の提示した口頭弁論期日の日程に対してもことごとく「日程が合わない」として引き延ばしをはかっています。

1/17の日程も「もう待てない」との裁判所の判断で決まりました。国・日本原子力発電(株)はこの日も出廷を「欠席」する可能性があります。

国や日本原電(株)は、政権交代による政策転換を期待し、また規制庁による敦賀原発廃炉判断への圧力をかけることに必死になっています。

※ 原告および賛同人になられている組合員・生産者には別途「訴訟団ニュース」でご案内します。

※ 当日は茨城県南(守谷-つくば-土浦)からバスが出る予定です。ごいっしょできる方はご連絡下さい。

ときめいて 笑顔の再会 大きくなったね

「忘れないよ あの日は心のこのあたりに」

黄色の花が咲いて、掌サイズの葉っぱが茂っていたね。思い出しては微笑んだ晴天の秋日和、ワタ畑を甲斐甲斐しく行き来し、ワタを摘む子どもたちの収穫に福島の子等が重なりました。台風やスポット豪雨、突風到来に少々うなだれ気味のワタの木々でしたが、しっかりした実りを見せてくれました。

そんなこんながたっぷりのプレゼントを厚かましくもお渡ししました。大歓迎のお受け取りをありがとうございます。

ワタの里交流会でお会いした皆さんが、其々にご挨拶をしにお立ち寄りをいただきました。暑かったね、あの日を思い出します。お元気でしたか。お世話になりました…と、忘れられない素敵な仲間です。

あのときのあの笑顔！みーんなすっかり大きくなっていてびっくりです。付き添うお母さん方も懐かしい。八木沼さんのご家族からお声かけがありました。仮設住宅にお住まいの浪江の方々もワタに触れてくださっていました。ほんの一時ですが、腰を落として話し込む方もいらして嬉しかったです。



やっぱり会いましょう。ワタ・棉・綿・コットン、誰でもが優しく笑顔になれるって信じています。心ほぐされる復興祭でした。お会いする度に皆さんから元気や勇気を貰います。ありがとうございました。(理事長 村井記)



元気！また会えたわね！福島のお母さんと再会を喜ぶ植原さん



行ってまいりました。あ！コープふくしまへ！！

コットンボール40kgは、絆の精神のもと、夢と希望の願いをこめて、12月1日(土) あ！コープふくしまの皆様に届けていただきました。

当日は、あ！にくの雪まじりの雨、冷たい寒い日でしたが、生協あ！コープふくしまの復興まつりの日でもありました。

会場には、生産者のかたがたと大勢の参加者で賑わい、その規模の大きさに圧倒され、驚かされました。

会場中央の特設ステージで、コットンボールの贈呈式が行われ、くみりちゃんのお母様に40kgのコットンボールを寄渡すことができました。

わたの里で育ったコットンボールは、
—1/2

福島のお母さん 更に大きく育ち
福島の地にしっかりと根付くことにならう
そう、より一層の強い絆でわたしたちは
結ばれることだろう。

わたしたちは、福島を決して忘れない、
雪もすっきりやんで、帰路のバス中、
福島の皆様と交流が、今日の私達
嬉しく思います。

ふくしまあ！コープの皆様、
今日は本当にありがとうございました。
感謝に満ちた一日でした。

12月4日
植原 中子
—1/2



【原発事故子ども・被災者支援法】支援対象区域指定、子ども健康調査を求めて

茨城・千葉のお母さんたち、復興庁から街頭まで

茨城・千葉・埼玉の21市町33団体で「放射能から子どもを守ろう関東ネット」を結成



← 11/26、茨城・千葉の母親たちが40名が霞が関におしかけ、復興庁交渉。



母親たち、街頭へ！
柏駅前商店街に横断幕を立てて子ども支援法適用を訴える（11/29）↓



←復興庁交渉に前後して各政党本部に申し入れ



千葉記者クラブにて健康調査要求記者会見（11/29）↓



脱原発いばらきネットによる衆院広報者原発アンケート記者会見に便乗して、子ども支援法、健康調査の記者会見も（12/3 つくば記者クラブ）↓



取手駅頭に横断幕とチラシ配布（11/8）



子ども支援法を広く知ってもらうためのチラシ。今週入っていますので、ぜひ知人、友人に！

2012年(平成24年)12月11日 火曜日

子ども支援法適用を

放射能親の不安

福島第一原発事故で県内にも広がった放射能汚染。特に、放射線量が比較的高い関東地域に住む父母らは子どもの被ばくに対する不安が続いている。「原発事故子ども・被災者支援法」の対象地域に本県を含むことで、子どもの継続的な健康調査についてほしいと訴える。

子ども支援法適用を

放射能親の不安

「お願いします」
子ども被災者支援法で茨城の子どもの健康調査をこのあたりの親たち

継続健康調査、願い切実

「お願いします」
子ども被災者支援法で茨城の子どもの健康調査をこのあたりの親たち

2人が直接行動し訴える、原動力となったのは行政不信だ。原発事故後、都留市の千原区と、千葉・埼玉原野の一部の選挙区の各候補者の顔ぶれ、茨城も行ったが、県内では選挙の10倍の場所があった。これは大衆を、学校も自治体も知らない、という気持ちで、私も、若者が住む層も、体は、ホルモンのカウター（全身測定装置）による健康調査が、候補者に茨城が、家を含めると茨城が、近づくが、2人の思い、ついでに、福島県内で行うと知って、「なぜ」と不安に変わった（並崎和則、写真は福島県内）

県内に全身測定装置はないのか。疑問をネットワークに掲げたところ、答えられたのが都留さんたちだ。

2人はさらに、千葉・埼玉原野の選挙区と、ネットワークを結んでいく。「ホットスポット」と呼ばれる汚染度の比較的高い地域に住む母親たち。

今回の衆院選では同法の対象地区への指定を求め、共同で各党本部に要望書を提出、本県内の七つの全小選挙区と、千葉・埼玉原野の一部の選挙区の各候補者へのアンケート測定器で計る、電高も行ったが、県内では選挙の10倍の場所があった。これは大衆を、学校も自治体も知らない、という気持ちで、私も、若者が住む層も、体は、ホルモンのカウター（全身測定装置）による健康調査が、候補者に茨城が、家を含めると茨城が、近づくが、2人の思い、ついでに、福島県内で行うと知って、「なぜ」と不安に変わった（並崎和則、写真は福島県内）

県内に全身測定装置はないのか。疑問をネットワークに掲げたところ、答えられたのが都留さんたちだ。

2人はさらに、千葉・埼玉原野の選挙区と、ネットワークを結んでいく。「ホットスポット」と呼ばれる汚染度の比較的高い地域に住む母親たち。

今回の衆院選では同法の対象地区への指定を求め、共同で各党本部に要望書を提出、本県内の七つの全小選挙区と、千葉・埼玉原野の一部の選挙区の各候補者へのアンケート測定器で計る、電高も行ったが、県内では選挙の10倍の場所があった。これは大衆を、学校も自治体も知らない、という気持ちで、私も、若者が住む層も、体は、ホルモンのカウター（全身測定装置）による健康調査が、候補者に茨城が、家を含めると茨城が、近づくが、2人の思い、ついでに、福島県内で行うと知って、「なぜ」と不安に変わった（並崎和則、写真は福島県内）

県内に全身測定装置はないのか。疑問をネットワークに掲げたところ、答えられたのが都留さんたちだ。

2人はさらに、千葉・埼玉原野の選挙区と、ネットワークを結んでいく。「ホットスポット」と呼ばれる汚染度の比較的高い地域に住む母親たち。

今回の衆院選では同法の対象地区への指定を求め、共同で各党本部に要望書を提出、本県内の七つの全小選挙区と、千葉・埼玉原野の一部の選挙区の各候補者へのアンケート測定器で計る、電高も行ったが、県内では選挙の10倍の場所があった。これは大衆を、学校も自治体も知らない、という気持ちで、私も、若者が住む層も、体は、ホルモンのカウター（全身測定装置）による健康調査が、候補者に茨城が、家を含めると茨城が、近づくが、2人の思い、ついでに、福島県内で行うと知って、「なぜ」と不安に変わった（並崎和則、写真は福島県内）

【生協子ども健康調査】先行して「血液検査」を実施します。

甲状腺検診・尿中放射能濃度検査に先だって、健康調査申込みのあった261名の子どもたちの「血液検査」を実施することとなりました。年明け1/19・20、生協本部にて医師立ち会いの下、看護師さんによって一斉「採血」を行います。検査は甲状腺機能の異常（TSH、FT3/FT4）、白血球（リンパ球）の異形があるかないかをスクリーニングします。検査機関は江東微生物研究所です。毎年のコホート研究用として血液は冷凍保存することとしました。

「尿検査」（146名）は生協のGe半導体検査機を使って週4検体（8時間/1検体）のペースで検査がはじまりました。時間がかかるので一部は外注します。クレアチニン（腎機能）、Na濃度の検査も行い尿中放射能濃度の補正もします。

「甲状腺エコー検診」（211名）は、茨城県南部～千葉東葛地域の11の病院に協力の申し入れをし、現在理解を示した2つの病院（茨城と千葉各1件）に絞って協議に入っています。